

税理士

簿記論 直前ゼミ

(問題・解説・解答)



簿記論 直前ゼミ 1 (CF 計算書)

平成30年論文式会計学〔午後〕

問題 2 キャッシュ・フロー計算書に関する次の問 1 および 問 2 に答えなさい。

問 1 次の〔資料Ⅰ〕に示したA社の財務諸表とそれに関連する〔資料Ⅱ〕の補足情報に基づき、〔資料Ⅲ〕に示した当期(X1年4月1日～X2年3月31日)のキャッシュ・フロー計算書の①～⑨に当てはまる語句または金額を答えなさい。なお、短期借入金に係るキャッシュ・フローについては純額で表示すること。また、金額がマイナスの場合は、その金額の前に△を付すこと。

〔資料Ⅰ〕 A社の財務諸表

1. 貸借対照表

(単位：百万円)

	X1年3月31日	X2年3月31日
資産の部		
現金及び預金	1,000	715
受取手形	300	300
売掛金	1,200	1,800
有価証券	900	1,000
たな卸資産	1,010	770
未収利息	50	100
有形固定資産－取得原価	1,210	2,525
有形固定資産－減価償却累計額	△ 1,060	△ 1,450
資産合計	4,610	5,760
負債の部		
買掛金	1,090	1,040
短期借入金	100	200
未払利息	100	200
未払法人税等	350	450
長期借入金	590	740
退職給付引当金	550	650
負債合計	2,780	3,280
純資産の部		
資本金	1,450	1,700
利益剰余金	380	780
純資産合計	1,830	2,480
負債及び純資産合計	4,610	5,760

平成30年論文式会計学〔午後〕

2. 損益計算書

(単位：百万円)

X1年4月1日～

X2年3月31日

売上高	23,920
売上原価	12,000
売上総利益	11,920
販売費及び一般管理費	9,550
受取利息及び配当金	700
支払利息	400
有形固定資産除却損	20
税引前当期純利益	2,650
法人税等	1,050
当期純利益	1,600

〔資料Ⅱ〕 当期の財務諸表に関する補足情報

1. 退職給付引当金を取り崩して退職金 50 百万円を支払い、期末に新たに 150 百万円を退職給付引当金に繰り入れた。
2. 株式発行により 250 百万円を、長期借入金により 250 百万円を、調達した。また、長期借入金の返済額は、100 百万円であった。
3. 受取配当金は 200 百万円であり、未収はなかった。
4. 有形固定資産の取得は 1,395 百万円であり、代金は全額、普通預金から振込み済みである。
5. 損益計算に計上した減価償却費は、450 百万円である。
6. 期首および期末における預金には、それぞれ 1 年満期の定期預金が 200 百万円含まれており、残りは普通預金である。
7. 当期中の法人税等支払額は、当期首の未払法人税等 350 百万円と当期の中間納付額 600 百万円である。
8. 剰余金の配当は 1,200 百万円であり、未払はなかった。
9. 当期中の有価証券の売却はなく、有価証券評価差額は発生していない。

平成30年論文式会計学〔午後〕

〔資料Ⅲ〕 当期のキャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

I 営業活動によるキャッシュ・フロー

(?)	()
減価償却費	()
有形固定資産除却損	()
退職給付引当金の増減額	()
受取利息及び受取配当金	()
支払利息	()
売上債権の増減額	()
たな卸資産の増減額	()
仕入債務の増減額	()
小計	(②)
利息及び配当金の受取額	(③)
利息の支払額	(④)
(①)	()
営業活動によるキャッシュ・フロー	(⑤)

II 投資活動によるキャッシュ・フロー

定期預金の預入による支出	()
定期預金の払戻による収入	()
有価証券取得による支出	(⑥)
有形固定資産取得による支出	()
投資活動によるキャッシュ・フロー	(⑦)

III 財務活動によるキャッシュ・フロー

(?)	()
長期借入による収入	()
長期借入金返済による支出	()
株式発行による収入	()
配当金の支払額	()
財務活動によるキャッシュ・フロー	(⑧)

IV 現金及び現金同等物の増減額	()
V 現金及び現金同等物の期首残高	()
VI 現金及び現金同等物の期末残高	(⑨)

平成30年論文式会計学〔午後〕